

2023 年度①

古津八幡山遺跡発掘調査速報展

～令和4年度の発掘調査成果について～



企画展の開催にあたって

古津八幡山遺跡は、昭和 62 (1987) 年に磐越自動車道の土取り工事に伴う試掘調査により発見された遺跡で、昨年で発見から 35 周年を迎えました。これまで 25 次にわたる発掘調査を行っており、県内最大の古墳（約 1600 年前）や弥生時代後期・終末期（約 1750 年～2000 年前）の大規模な高地性環濠集落などが確認されています。

重要な遺跡であることから、平成 2 (1990) 年には遺跡の主要な範囲が保存されることとなり、平成 17 (2005) 年には国の史跡に指定されました。その後、弥生時代の集落や古墳などの復元整備、さらにはガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」の開館など、主要な整備が終わった平成 27 (2015) 年から「古津八幡山遺跡歴史の広場」として全面供用を行っています。

また、平成 29 (2017) 年からは史跡をより適切に保存・活用していくため、遺跡北東域の史跡指定地外において発掘調査を実施しており、そこでも重要な発見が続いています。本企画展では、昨年の発掘調査の成果を中心に速報展示します。



古津八幡山遺跡遠景（平成 26 年）



古津八幡山遺跡全面公開開場式
（平成 27 年 4 月 17 日）

令和4年の調査成果の概要

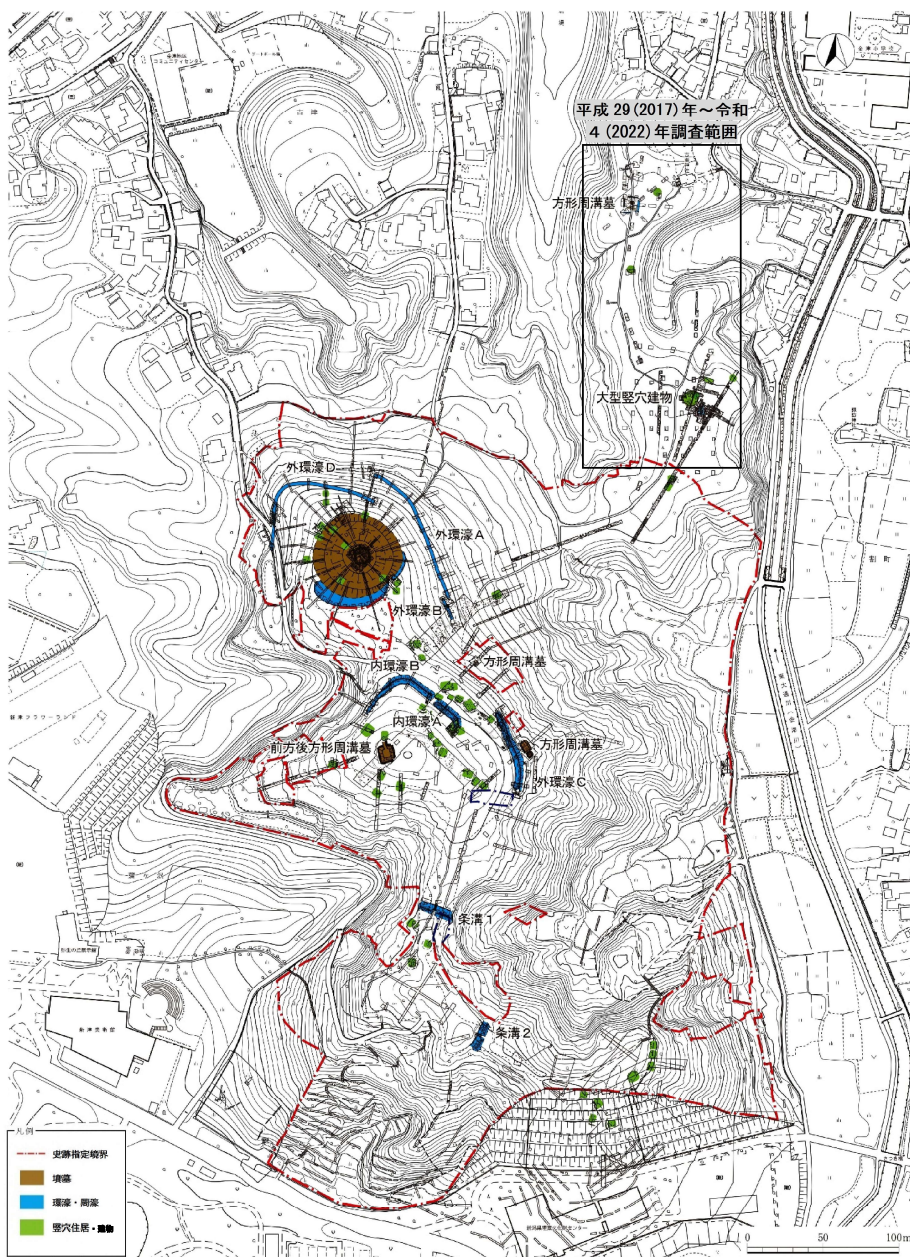
平成29(2017)年から実施している調査地は、遺跡北東部の標高約25mの丘陵中腹域に位置し、平坦面や緩い斜面域からなる南北方向にのびる尾根筋にあたります。かつて縄文時代の遺跡として「埋葬地遺跡」と呼ばれていた範囲と一部重複します。これまでに、古津八幡山遺跡で最大となる大型の竪穴建物(SI1)や方形周溝墓(SZ743)が発見されるなど、多くの重要な成果がありました。

令和4(2022)年の調査は、①令和3(2021)年の調査で確認された3つの埋葬施設を持つ方形周溝墓(SZ743)の形態・規模の確定、②方形周溝墓(SZ743)の各埋葬施設の規模や構造の把握、③周辺における遺構の有無の確認、を目的に調査を行いました。

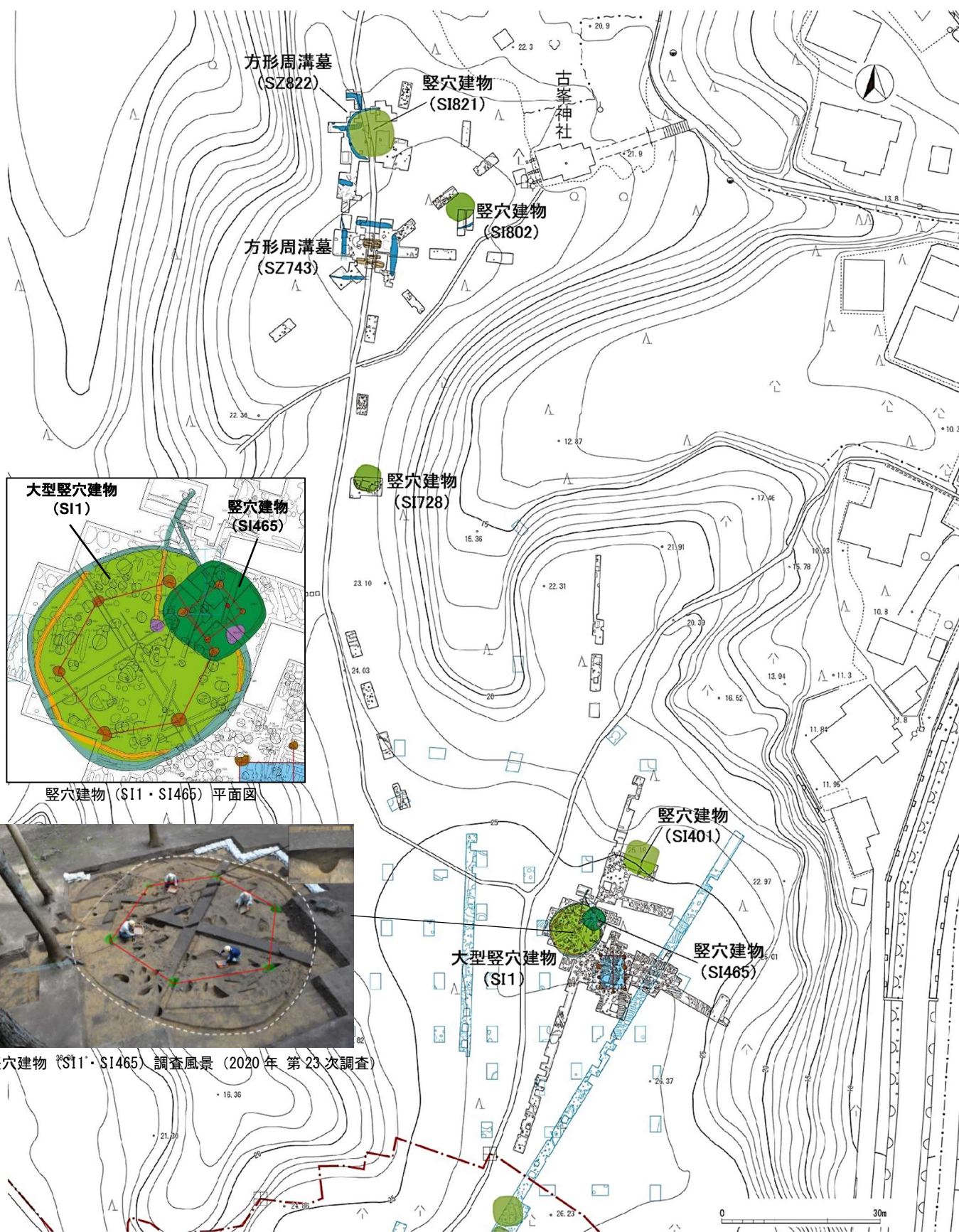
調査の結果、方形周溝墓(SZ743)の内部から新たに1つの埋葬施設が確認され、合計4つの埋葬施設を持つ墓であることが分かりました。

さらに、4つのうち最も大きい埋葬施設は、「木槨」という空間の中に木棺を置く西日本的な特徴を持った構造であることも分かりました。

また、周辺において、竪穴建物2棟(SI802・821)や方形周溝墓(SZ822)が新たに見つかりました。



古津八幡山遺跡遺構平面図および平成29年～令和4年調査範囲



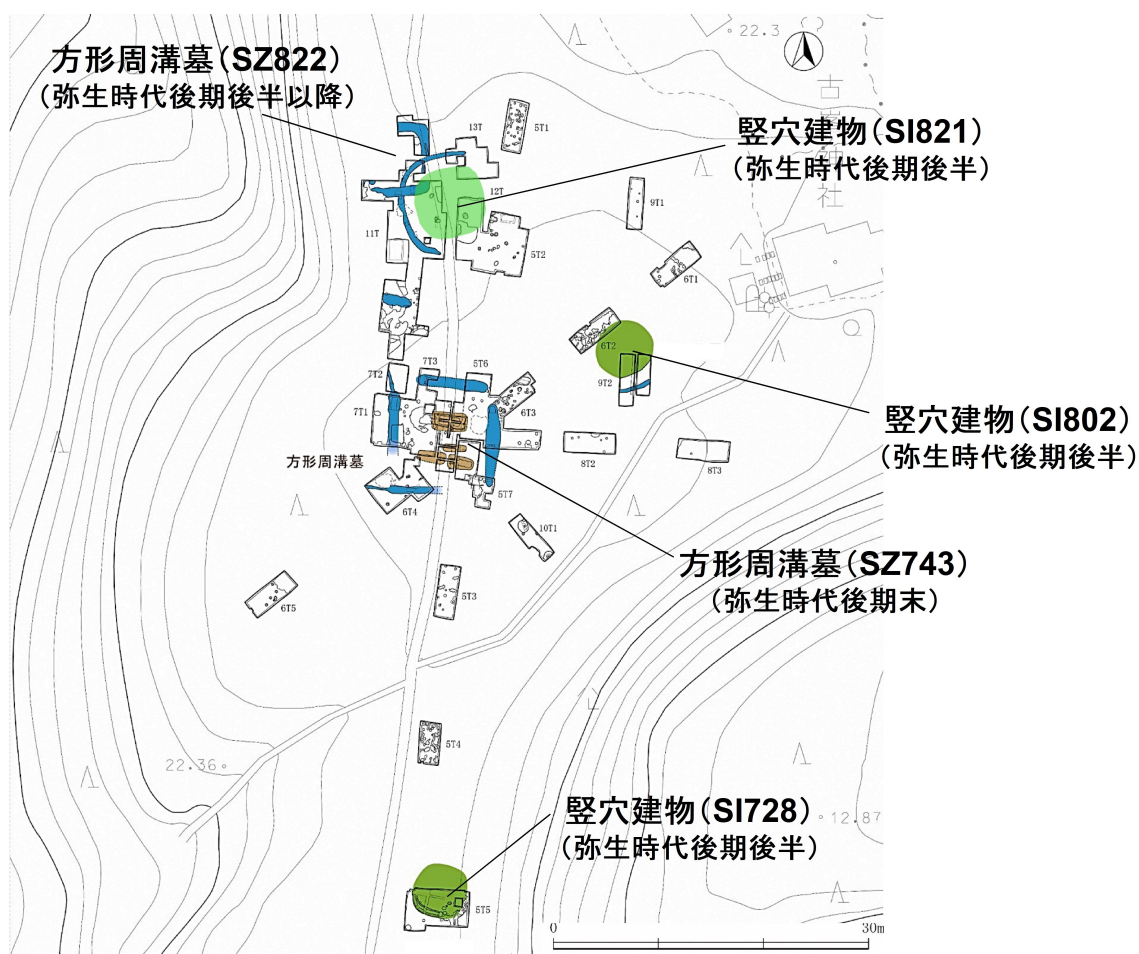
平成 29 年～令和 4 年調査地平面図

令和3・4年調査で見つかった竪穴建物

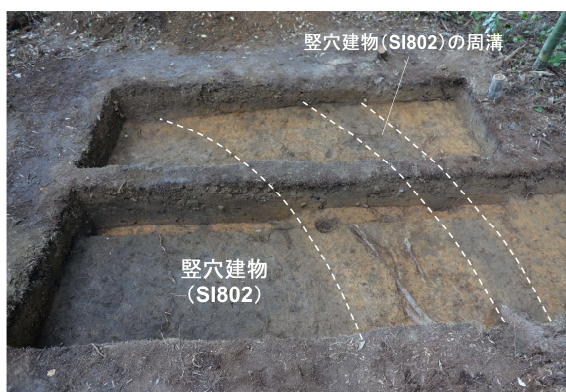
令和3（2021）・4（2022）年は、大型竪穴建物（SI1）から尾根筋に北西へ約100～150mの範囲において発掘調査を行いました。その結果、方形周溝墓2基（SZ743・822）、竪穴建物3棟（SI728・802・821）などが確認されました。3棟の竪穴建物は、出土土器からいずれも弥生時代後期後半（新潟シンガ編年2期）の建物と推測されます。この時期は環濠が機能している時期で、これまでに確認されている竪穴建物の分布や数から、集落の中心は環濠に囲まれた丘陵頂上部にあったと考えられます。

令和3・4年の調査で見つかった3棟の竪穴建物の発見によって、弥生時代後期後半に丘陵中腹域でも竪穴建物が点在していたことが分かりました。丘陵頂上部と中腹域とで空間利用のしかた、竪穴建物の性格にどのような違いがあったのかは今後の課題と言えます。

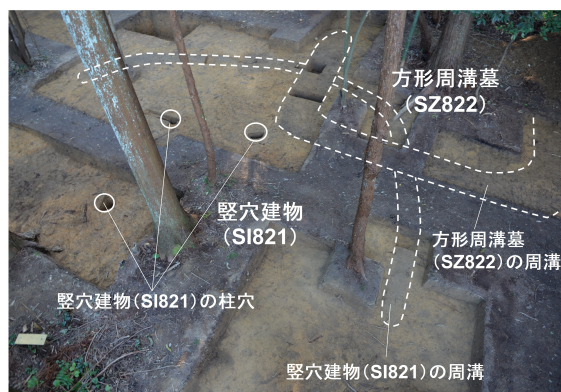
その後、弥生時代後期末（同3期）以降、尾根の北側は墓域としての利用へと変化します。他方、尾根の南側では引き続き建物がつくられ、弥生時代終末期（同4期）には、尾根の南側で大型竪穴建物（SI1）がつくられるなど、丘陵頂上部に代わって中腹域の利用が活発になります。



令和3・4年調査地平面図



竪穴建物 (SI802 西から)



竪穴建物・方形周溝墓 (SI821・SZ822 北東から)

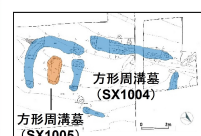
古津八幡山遺跡における弥生時代のお墓

古津八幡山遺跡では、丘陵頂上部の調査で方形周溝墓 3 基 (SX1005 (方形周溝墓 1)・SX1004 (方形周溝墓 2)・SX1303 (方形周溝墓 3)) と、前方後方形周溝墓 1 基 (SX03S14)、土器棺墓 1 基 (SX1006) がみついています。さらに、令和 3・4 年度の丘陵中腹域の調査で、新たに方形周溝墓 2 基 (SZ743・822) が見つかり、丘陵中腹域も墓域として利用されていたことが明らかになりました。

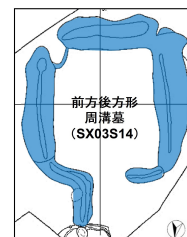
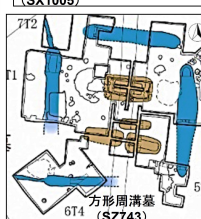
方形周溝墓の年代については、出土土器などから SX1005 が後期前半 (新潟シンボ編年 1 期)、SX1004 が後期後半 (同 2 期)、SZ743 が後期末 (同 3 期) 頃、前方後方形周溝墓 (SX03S14) が終末期以降 (4 期以降) と推定しており、時期が新しくなるにつれてお墓の規模が大きくなっていくと推測されます。

なお、比較的墳丘の規模が小さく、墓壇や木棺サイズもそれほど大きくない方形周溝墓 SX1005 において、当時の希少品である鹿角装鉄剣が副葬されていたことは、方形周溝墓に埋葬された人物が集落の上位有力者であったことを物語っています。

					地域	
時期区分	時期			新津丘陵 (古津八幡山)		
	新潟シンボ編年	古墳集成編年	須恵器			
1 200	弥生後期	1			SX1005 ■ 3	
		2			SX1004 ■ 6	
		3			SZ743 ■ 10	
	弥生終末期 (古墳早期)	4			(SZ822 ■ 5)	
		5			SX03S14 ■ 13	
		6				
300	前半	7	1期			
		8	2期			
	後半	9	3期			
		10	4期			
400		5期	TG232		古津八幡山 ● 60	



平面図の縮尺同



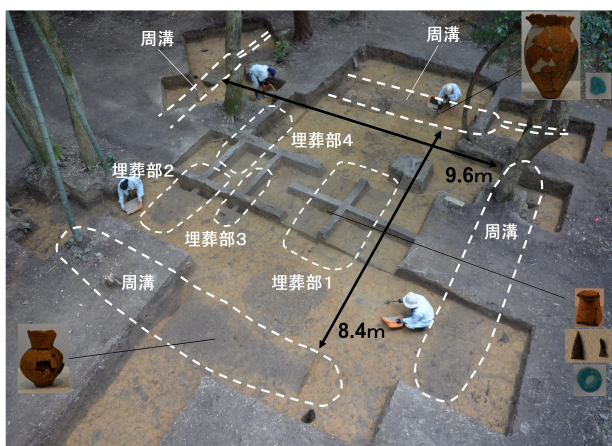
古津八幡山遺跡の弥生時代後期～終末期の墳墓

令和3・4年調査で見つかった方形周溝墓

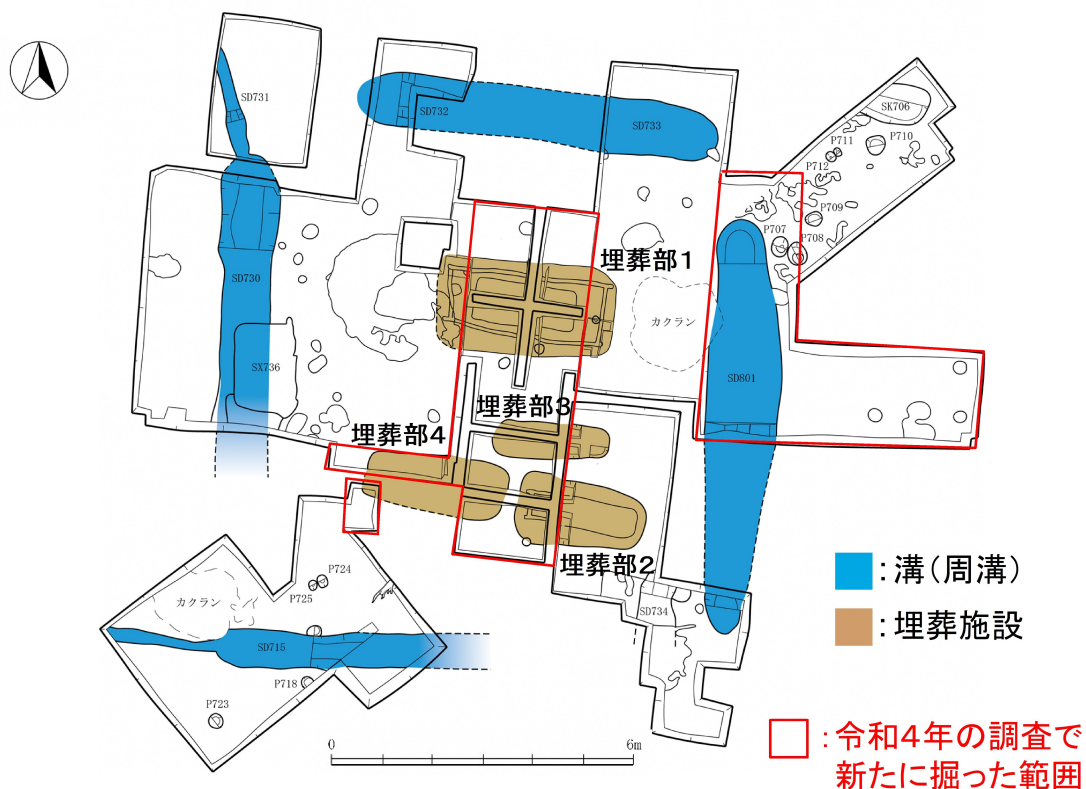
方形周溝墓（SZ743）は、令和4（2022）年の調査で東辺の周溝が確認され、形や大きさが確定しました。周溝の四隅が途切れる形態で、周溝の内側で計測すると、長軸（南北）9.6m、短軸（東西）8.4mを測り、古津八幡山遺跡の中で最大の方形周溝墓となります。

また、今年度の調査で埋葬部4が新たに見つかり、合計4基の埋葬施設をもつことが判明しました。さらに、埋葬部1は「木槨」構造の埋葬施設と考えられ、規模や構造から最も上位で中心的な埋葬施設であったと判断されます。

出土遺物は、周溝から壺、甕、破損したガラス玉1点などが、また、埋葬部1から高杯や完形のガラス玉1点、石鏃2点などが出土しました。弥生時代後期末（新潟シンガ編年3期）頃のお墓と推定しています。

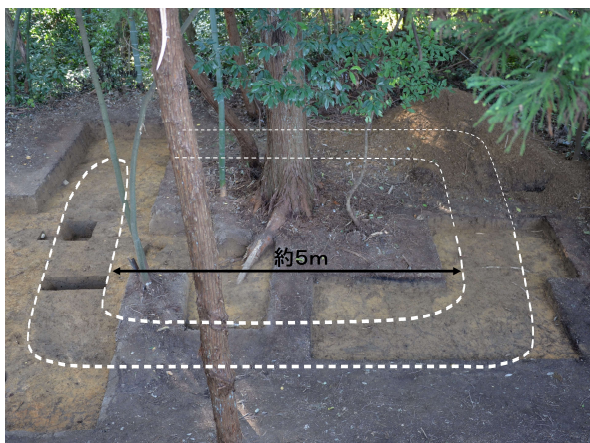


方形周溝墓（SZ743）調査風景（北東から）

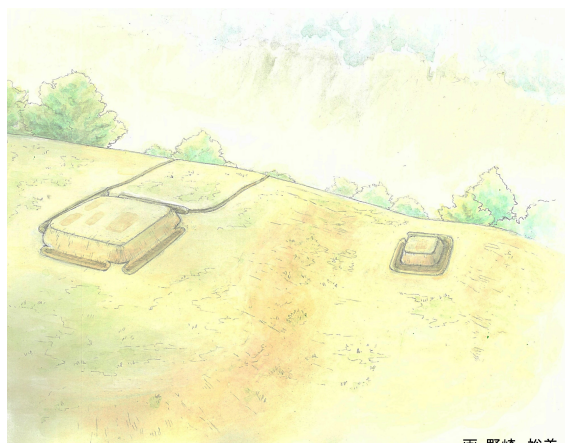


方形周溝墓（SZ743）平面図

ほかにも、方形周溝墓 (SZ743) から尾根筋に北西約 20m の場所で方形周溝墓 (SZ822) が新たに発見されました。周溝の内側で南北約 5 m の規模となります。周溝は、南東隅と北東隅のコーナーは途切れない形態です。竪穴建物 (SI821) の周溝を壊していることから、少なくとも弥生時代後期後半 (同 2 期) 以降のお墓といえます。

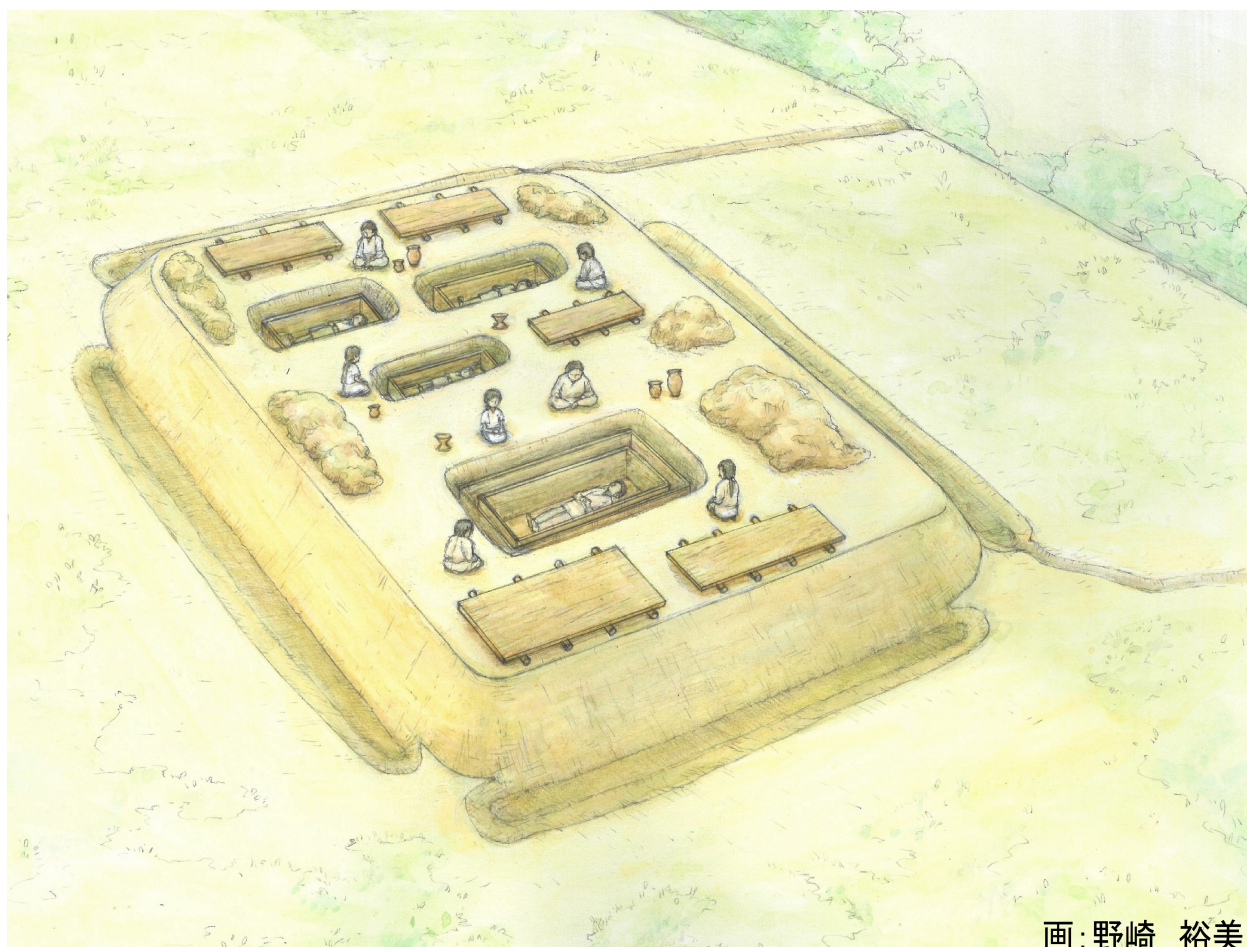


方形周溝墓 (SZ822 東から)



画:野崎 裕美

方形周溝墓 (SZ743・SZ822) 推定復元イメージ画



画:野崎 裕美

方形周溝墓 (SZ743) 推定復元イメージ画

方形周溝墓（SZ743）埋葬部 1 の推定復元模型

方形周溝墓（SZ743）の埋葬部 1 について、縮尺 1/2 で推定復元した模型を制作し、展示しています。発掘調査の所見から、木槨は外寸で長軸約 3.0 m・短軸約 1.2 m、木棺は外寸で長軸約 1.9 m・短軸約 0.8 m とし、その 1/2 サイズで制作しました。

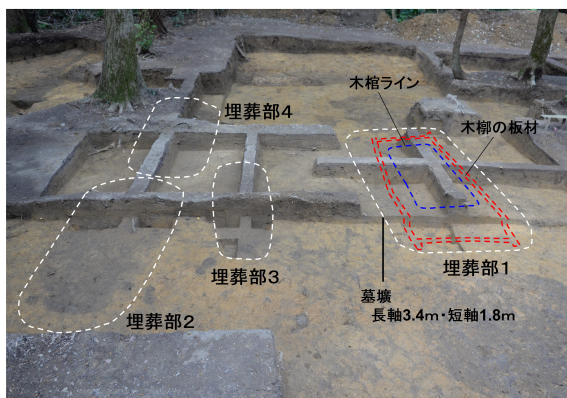
ただし、木槨・木棺とも高さは後世の削平により不明のため、木棺は現在の棺を参考に高さ約 40 cm としました。木槨は棺の高さよりも高くなるため、約 60 cm として制作しました。

なお、埋葬部 1 のつくり方は以下①～④のような工程・工法と推定しています。

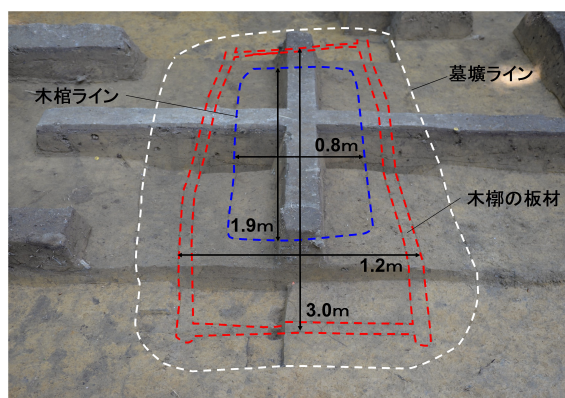
- ①棺を入れるための穴（墓壇）を掘ります。平面は長形状で、広めに掘ります。
- ②墓壇内に板で長方形の空間（木槨）をつくります。長側板に小口板を挟みこむ構造で、墓壇と木槨との間には裏込土を入れて木槨を固定します。底板は用いず、木槨内下部に土を平坦に敷いて整地し、棺を置くための床（棺床）をつくります。
- ③木槨内部に木棺を入れます。木棺も底板を用いなかったと考えられ、現地で組み立てたものと推測されます。
- ④木棺、木槨に蓋をし、土で覆って墳丘を完成させます。



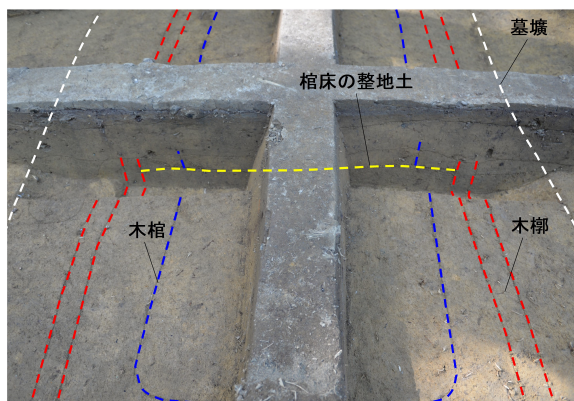
方形周溝墓（SZ743）埋葬部 1 の推定復元模型



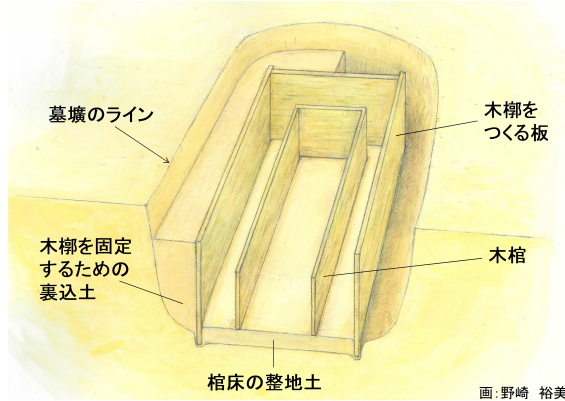
方形周溝墓（SZ743）埋葬部 1～4 全景（東から）



方形周溝墓（SZ743）埋葬部 1 全景（東から）



方形周溝墓（SZ743）埋葬部 1 の断面（東から）



方形周溝墓（SZ743）埋葬部 1 の推定復元イメージ画

おわりに

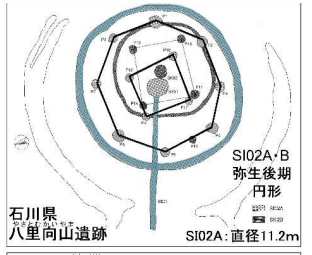
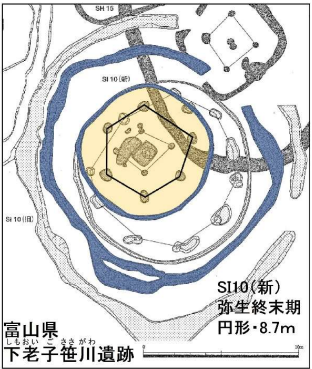
令和4年の調査により、遺跡北東部の丘陵中腹域に位置する尾根の北側が、弥生時代後期末以降、墓域として利用された実態が明らかになりました。方形周溝墓（SZ743）は、県内初となる弥生時代の複数埋葬事例で、中心埋葬施設に木槨構造を採用するなど、東日本では特異なお墓といえ、西日本の墓制の影響を強く受けていると考えられます。

なお、南東約150mに位置する弥生時代終末期の大型竪穴建物（SI1）も、6本柱の支柱構造や排水溝の存在など、西の拠点集落との関係が推測されています。

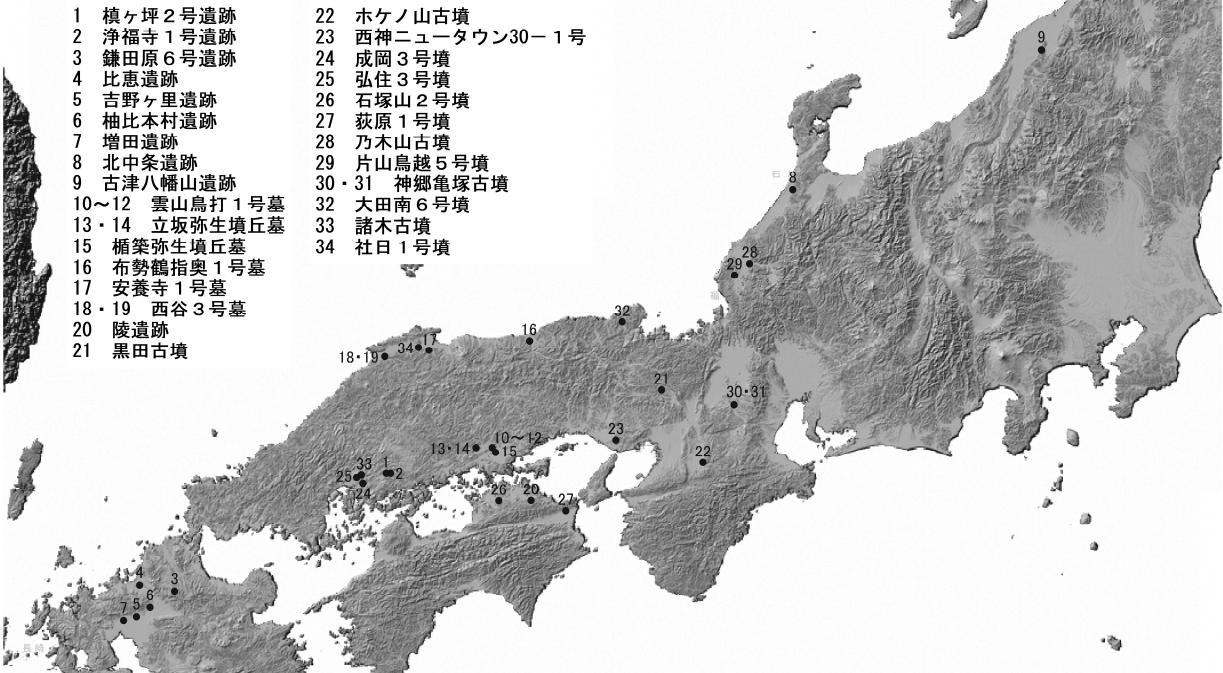
弥生時代から古墳時代における古津八幡山遺跡の動向

※赤字は平成29年～令和4年の調査で見つかった遺構

時代	北陸西南部編年	古墳集成編年	新潟シンボジウム編年	古津八幡山遺跡			
弥生時代 後期末以降	小松 専光寺 戸水B			環濠	竪穴建物	掘立柱建物	墓
				—	—	—	—
	V-1群						
	1群 V-2群						
	V-3群	箱橋式	1期	集落の出現 外環濠の掘削			方形周溝墓
	2群 2-1群						
	2-2群	法仏式	2期		SI802・SI821 SI0603 SI03S03 SI03S05 SI0602 SI728 SI03S06 SI03N03 大型竪穴建物(SI1) SI465	掘立柱建物群？	SX1005 SX1006 SX1004 SZ743 (大型方形周溝墓) SZ822？
	3群	月影式	3期	環濠の一部埋没 ⇒一部環濠の再掘削？ 内環濠掘削？			
	4群		4期				
	5群	白江式	5期				前方後方形周溝墓？
古墳時代 前期	6群		6期	高地性集落の廃絶、平地での集落の出現			
	7群	古府ウルビ式	1期	7期			
	8群		2期	8期			
	9群	高島式	3期	9期			
	10群		4期	10期			



北陸の主な大型竪穴建物
↓古津八幡山古墳（古墳中期）



木槨構造の墓の分布（番号は10頁一覧表と対応）

国内の主な木槨墓

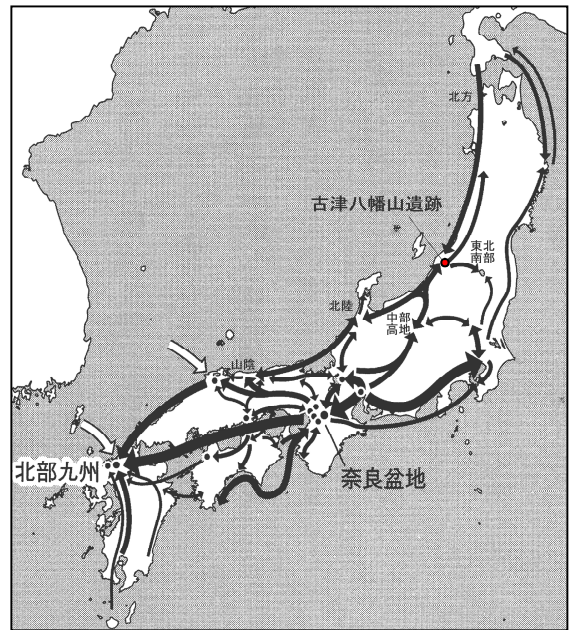
(岡林孝作2018『古墳時代棺槨構造と系譜』同成社、
小羽山墳墓群研究会2010『小羽山墳墓群の研究』福井市立郷土歴史博物館をもとに作成・一部追加)

類型	長幅比	四側板を立てた後の槨底面の整備	槨の裏込め
A	3.0~4.0前後	なし	あり
B	1.5~2.5前後	平らに整える	あり
C	1	中央が舟底状にくぼんだ棺床を整える	あり
	2		なし

	遺跡・遺構	所在地	時期	類型	墳形	規模 (m)	墓壇			木槨				木棺			
							長さ	幅	深さ	棺床	長さ	幅	高さ	長幅比	形式	棺長	幅
1	横ヶ坪2号遺跡SK 1	広島県東広島市	弥生中期後葉	A	円	6.5	2.5	0.8	0.45-0.5	棺蓋・配石	2.15	0.55	0.15-0.2	3.9	(割様式)	2.1	0.4±
2	浄福寺1号遺跡SK6	広島県東広島市	弥生中期後葉?	A	(木槨墓)		2	0.7-0.75	0.15+	棺蓋	2	0.55		3.6	(割様式)	2	
3	鎌田原6号木槨墓	福岡県嘉麻市	弥生中期前半~中葉	A	隅丸長方	25×23	6.45	4.25		棺蓋・粘土敷	3.59	0.88		4.1	箱形	2.2+	0.46
4	比恵遺跡SX03	福岡県福岡市	弥生中期前葉	A	(土坑墓)		4.1	1.8		棺蓋	3.4+	1.1		3.1	(割様式)	2.7	0.5-0.6
5	吉野ヶ里遺跡SP0912	佐賀県吉野ヶ里町	弥生中期中葉	A	(木槨墓)		2.8	1.3		棺蓋	2	0.7		2.9	(割様式)	1.9	0.5
6	袖比本村遺跡SP1100	佐賀県鳥栖市	弥生中期初頭	A	(木槨墓)		7.35+	3.7+		棺蓋	2.65	0.7-0.8		3.5	(割様式)	2	0.6
7	増田遺跡SP6407	佐賀県佐賀市	弥生前期末~中期前半	A	(木槨墓)		2.45	0.95	0.55	棺蓋	2.1	0.75		2.8	(割様式)	1.9	0.45
8	北中条遺跡木槨墓	石川県津幡町	弥生後期末	(B)	(木槨墓)		3.86	2.92	0.45	×	3.2	1.58		2	(組合式)		
9	古津八幡山遺跡方形周溝墓 (SZ743) 埋葬部1	新潟県新潟市	弥生後期後葉~末	B	方	9.6×8.4	(3.4)	1.75		×	3	1.2		2.5	組合式	(1.92)	(0.8)
10	雲山島打1号墓 (第3主体)	岡山県岡山市	弥生後期後葉	B	長方	約20×15	4	2.5	0.9	置き土	2.7	1.4		1.9	組合式	1.9	0.55
11	雲山島打1号墓 (第2主体)		弥生後期後葉	B			4.3	2.5	1.3	?	3	0.95		3.2	組合式	1.6	0.45
12	雲山島打1号墓 (第1主体)		弥生後期後葉	B			4.1	3.8	0.6+	?	2.5	1.3	0.6	1.9	組合式		
13	立坂弥生墳丘墓 (第2主体)	岡山県総社市	弥生後期後葉	B	橋円	約18				板石敷	2+	1			組合式	1.7+	
14	立坂弥生墳丘墓 (第3主体)		弥生後期後葉	B						小暖敷	2.7	0.9		3	組合式		
15	榎葉弥生墳丘墓 (中心主体)	岡山県倉敷市	弥生後期後葉	B	双方中円	約80	9	6.25-5.5	2.1	底板	3.6	1.3-1.6	0.88+	2.3	組合式	2.2	0.8-0.9
16	布勢鶴田奥1号墓 (第1主体部)	鳥取県鳥取市	弥生中期中葉	B	長方	17.8×10.6	4.8	3.4	1.4	×	2.96	1.18	1	2.5	組合式	2	0.4-0.56
17	安養寺1号墓 (第1主体)	島根県安来市	弥生後期末	(B)	四隅突出	20×16	5	3.3	1.2-1.3	×	3	1.3-1.6		2.1	組合式	2.25	0.4-0.7
18	西谷3号墓 (第1主体)	島根県出雲市	弥生後期後葉	(B)	四隅突出	50×40 (突出部含む)	6.1	4.8-4.4	1	置き土	2.6	1.2-1.25	0.7-0.8	2.1	組合式	2.1	0.8-0.85
19	西谷3号墓 (第4主体棺)		弥生後期後葉	(B)			6	4.5		×	2.6	1.25	0.8	2.1	組合式	2.3	0.8
20	陵道跡ST-02 (第1墓域)	香川県さぬき市	弥生中期中葉	B?	円	11	—	—	—	×	2.83+	1.55		-2	?		
21	黒田古墳 (第1主体部)	京都府南丹市	古墳前期初葉	C1	前方後円	52	10	6.5	2.5	礎床	6.5	2.5/2.7	1.5	2.5	舟形	4	0.7-1.2
22	水ヶノ山古墳 (中心埋葬施設)	奈良県桜井市	古墳前期初葉	C2	前方後円	80	10	6		礎床	6.5	2.6	(約1)	2.5	舟形	5.3	1.3
23	西神ニュータウン30-1号	兵庫県神戸市	古墳中期	C	円	16	2.7+	1.9		礎床	2+	1.4-1.6			割様式	1.3+	0.4
24	成岡3号墳 (第1主体)	広島県広島市	古墳前期初葉	C1	円	13.5×11.5	3.85	1.9	0.94	置き土	2.6	1	0.4	2.6	舟形	2.6-	1-
25	弘住3号墳	広島県広島市	古墳前期初葉	C2	双方中円	25の円丘に5以上の突出部	4.5	3	1.3	礎床	2.7	1.2	1.2	2.3	舟形	-2	0.8
26	石塚山2号墳 (第1主体部)	香川県丸亀市	古墳前期初葉	C2	円	約25	3.65	2.55	1.25	×	3.65	2.55	1.25	1.4	?	2.1	0.8
27	萩原1号墳	徳島県鳴門市	古墳前期初葉	C2	前方後円	26.5	—	—	—	礎床	5.5	3		1.8	舟形	4	1.3
28	乃木山古墳 (第1埋葬施設)	福井県永平寺町	古墳前期初葉	(A')	長方	30×24	7.2	4.5	1.1	×	4.7	1.4-1.6	1	2.9	組合式	3	0.7
29	片山島越5号墳 (第1埋葬)	福井県清水町	古墳前期初葉	(A')	長方	16.5×14.5	3.6	2.2	0.9	×	3	1.2		2.5	組合式	2	0.5
30	神郷亀塚古墳 (第1主体)	滋賀県東近江市	古墳前期初葉?	(A')	前方後方	36.5	—	—	—	粘土床?	4.7	1.3	1.3	3.6	舟形	(2-2.5)	0.5
31	神郷亀塚古墳 (第2主体)		古墳前期初葉?	(A')			?	1.25		(棺蓋)	3.5	1.1	1.1	3.2	舟形	2	0.5
32	大田南6号墳	京都府京丹波市	古墳前期後葉	A'	円	28.5	9.6	6.5	2.5	×	6.2	1.18-1.37	0.5-0.6	4.5	箱形	5.4	0.8-1.14
33	諸木古墳	広島県広島市	5世紀後半	A'	円	11	2.62		0.6-0.7	棺蓋・配石	2.3	0.9		2.6	組合式	2	0.5
34	社日1号墳 (第1主体部)	島根県松江市	古墳前期初葉	(A')	方	19.5×15	5	1.6-2	1.1	×	3.5	0.7-0.85	0.8+	4.5	割様式	3	0.6

以上、古津八幡山遺跡では弥生時代後期末(新潟シンボ編年3期)以降、西方の有力者層との関係が強まったと推測されるとともに、その交流が首長間のネットワークを介してピンポイントで行われた状況が示唆されます。弥生時代から古墳時代への移行期にあたる3世紀前半は、激動の時代を表すかのように列島各地で人やモノの動きが活発化する時期ですが、古津八幡山遺跡の動向もその流れを反映したものと考えられます。

最後に、平成29(2017)年から実施してきた確認調査ですが、令和4(2022)年をもちまして一旦終了となります。調査にあたりご理解・ご協力を頂いた地権者・関係者の皆様にお礼申し上げます。



3世紀前半の人の動き
(松木武彦 2007『列島創世期』小学館から・一部改変)